



物流ニッポン

2008年(平成20年)

12|18 (木)

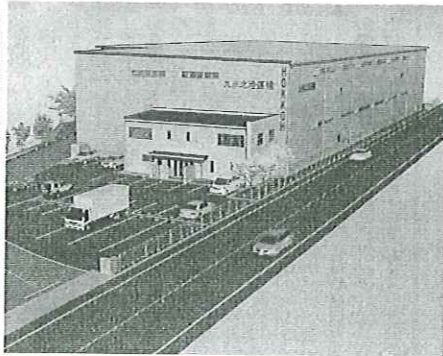
発行/月曜日・木曜日 第3188号

購読料/半年32,130円(月額5,355円、税込)

©物流ニッポン新聞社 2008 (昭和44年4月1日第三種郵便物認可)

大分センター建設

多機能拠点の大分センター(完成予想図)



【佐藤新二】北港運輸(古谷裕子社長、大阪市此花区)は本年一月、大分県豊後高田市の大分北部中核工業団地に建設を進めている大分センターを稼働させる。多機能物流拠点として、同工業団地進出企業はもとより、九州北部地域の共同配送に活用する。

同センターは、敷地面積約二層建て延べ床面積約八千五百平方メートル、鉄積八千平方メートル。九州北港小倉北区が運営する。

九州北部で共配に活用 北港運輸 サプライチェーン対応

管はもとより、ラインへの時間納入、製品保管・配送、加工物流など、幅広い業務に対応できるよう汎用性を持たせている。物流中継機能を持つセンターの全国展開を進める同社は、昨年十一月に広島センター(広島県)を開設、大分市安佐南区を開設、大分

分センターの稼働前の来月一月にも、静岡県御殿場市の御殿場センターで扱う、御殿場地区工業団地進出企業の物量増加に伴い、延べ床面積八千七百三十平方メートルの第二センターを稼働させる。

同社では、輸送の合理化・高効率化、車両開発、信頼とサービスの向上に努める総合物流のプロフェッショナル企業として、高品質な体制づくりを進めている。

分センターの稼働前の来月一月にも、静岡県御殿場市の御殿場センターで扱う、御殿場地区工業団地進出企業の物量増加に伴い、延べ床面積八千七百三十平方メートルの第二センターを稼働させる。